微分積分学第一(LAS.M101-06)

チェイン・ルール

山田光太郎

kotaro@math.titech.ac.jp

http://www.official.kotaroy.com/class/2024/calc-1/

東京工業大学

2024/07/02

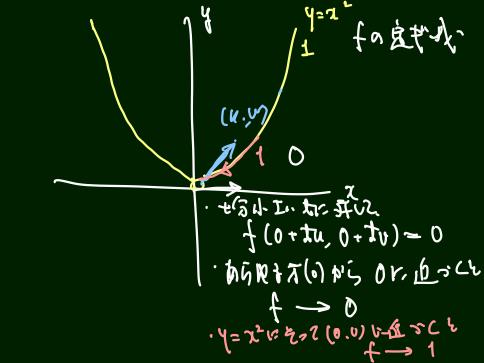
Q: $f: I \to \mathbb{R}$; 区間 I 上で $f'(x) = 0 \Rightarrow f$ は区間 I で定数" という定理を平均値の定理で示していたが、次のような証明でもよいですか. $f(x) = \int f'(x) dx = \int 0 dx = C$ (C は積分定数) より示された.

A: よくありません.

微分積分学第一 2024/07/0

Q: 多変数関数の極限について,講義ノートの (3.1) にある 「(x,y) がどのような経路で (a,b) に近づいても」の部分は,例えば 1 変数関数における極限が変数を正の方向,及び負の 報告からある値に近づけることで定義されるように,「平面 上のあらゆる方向から (x,y) を (a,b) に近づけても」と言い 換えられますか?

微分積分学第一 2024/07/02 3 / 9



- Q: $\lim_{(x,y)\to(a,b)}f(x,y)=A$ (*) が成り立つための必要十分条件は
 - ・任意の 2 つの数列 $\{h_n\}$, $\{k_n\}$ に対して $\lim_{n\to\infty} f(a+h_n,b+k_n) = A$ であると講義でありましたが h, k を数列にする理由は何ですか.

A: 任意の<u>0 に収束する</u> 2つの数列, です.

とるを結構をけるつとができる

徽分積分学第一 2024/07/

Q: 授業で $\varepsilon(h,k)\sqrt{h^2+k^2}$ を誤差であると説明されていましたが、これが誤差と言えるのはなぜですか.

 $D\subset\mathbb{R}^2$: 領域; $f\colon\to\mathbb{R}$: 関数; $(a,b)\in D$

定義

により arepsilon(h,k) を定義すると,次が成り立つことである:

 $\lim_{(h,k)\to(0,0)}\varepsilon(h,k)=0.$

微分積分学第一 2024/07/0

(C.k)->(0.0) E(h. k. 0,0 -> 0 wht→ o the Orkor

高等学校の復習:合成関数の微分法

$$F(t) := f(g(t)) = f \circ g(t)$$

$$F(t) := f(g(t)) = f \circ g(t)$$

$$F(t) = f(g(t)) \cdot g(t)$$

$$= cont^{2} 2t$$

$$\frac{dy}{dt} = \frac{dy}{dt}$$

$$\frac{dy}{dt} = \frac{dy}{$$

微分積分学第

2024/07/02

曲線に沿う微分

- $f: D \to \mathbb{R}$:微分可能な2変数関数 $f(\mathbf{X}, \mathbf{Y})$ $\gamma(t) = (x(t), y(t)) : D$ の曲線のパラメータ表示
- $F(t) := \bigcap \gamma(t) = f(x(t), y(t))$

命題 (命題 3.23)

$$\frac{dF}{dt}(t) = \frac{\partial f}{\partial x} \big(x(t), y(t) \big) \frac{dx}{dt}(t) + \frac{\partial f}{\partial y} \big(x(t), y(t) \big) \frac{dy}{dt}(t).$$

分板のように指えない

微分積分学第一

時初 24- plane 1(*) f (x10) - \$(41) 標高

方向微分

- ▶ $f: D \to \mathbb{R}$: 微分可能な2変数関数
- $P = {}^{t}(a,b) \in D \; ; \; v = {}^{t}(u,v)$

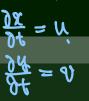
f の P における v 方向の方向微分

$$(df)_P \boldsymbol{v} = \left. \frac{d}{dt} \right|_{t=0} F(\boldsymbol{p} + t\boldsymbol{v})$$

命題 (命題 4.2)

$$(df)_{P} \mathbf{v} = \frac{\partial f}{\partial x}(a,b)u + \frac{\partial f}{\partial y}(a,b)v$$
$$= \left(\frac{\partial f}{\partial x}(P), \frac{\partial f}{\partial y}(P)\right) \begin{pmatrix} u\\v \end{pmatrix}$$

Y(1)=



勾配ベクトル

$ightharpoonup f\colon D o \mathbb{R}$:微分可能な2変数関数

$$ightharpoonup P = {}^t(a,b) \in D \; ; \; \boldsymbol{v} = {}^t(u,v)$$

$$(\operatorname{grad} f)_P := \begin{pmatrix} \frac{\partial f}{\partial x}(P) \\ \frac{\partial f}{\partial y}(P) \end{pmatrix}$$